

# 新年のご挨拶

(平成 31 年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交換会より)

## 会長挨拶

一般社団法人 情報サービス産業協会  
会長 横塚 裕志

新年明けましておめでとうございます。

大変大勢の方にお越しいただきましてありがとうございます。また、本日は関経済産業副大臣を始め経済産業省の幹部の皆様方に多数お越しただいています。本当にありがとうございます。

さて、皆さまは今年どんな初夢をご覧になりましたでしょうか。少しだけ私の初夢の話をさせていただきます。昨年を振り返りますと、日本を含めて世界中が多く自然災害に見舞われました。今でもまだご苦労されている方が大変大勢いらっしゃいます。東京でも7~8月では35度を超える猛暑日が続きました。おそらく地球温暖化が原因となり、異常気象が世界中を襲っているのだと思います。

年末には国連が2015年に策定したSDGsの2030アジェンダを全文読み、大変な危機感を感じました。2015年から2030年までの15年間は地球環境保護あるいは貧困課題に取り組んでいかないと、その先の地球はまずいのではないか、この15年が最後の取り組みになるのではないかという危機感。加えて、ビジネスとしてこの社会課題を解決することに全員で取り組まなければ、この地球は危ないという危機感が綿々と書かれておりました。私たちがこの約100年間の工業社会の中で地球を痛めつけてきたことを反省し、私たち自身の課題としてこの社会課題を捉えることや、ビジネスとしてこの社会課題を解決することが、我々にとって非常に大事な責任であることを改めて感じたところです。

ヨーロッパでは社会課題にビジネスとして取り組む動きが本格的に始まっていると感じます。例えば、スペインの銀行を中心にして作られているGABV(Global Alliance for Banking on Values)といった、社会課題を解決する企業にのみ融資、サポートする銀行のアライアンスがあります。つまり銀行自体が社会課題を解決するエンジンとしたアライアンスが既に出来ているのです。昨年の秋に日本で唯一、第一勧業信用組合がそのアライアンスに参加しましたが、我々全員で社会課題を解決する取り組みがだいぶ始まっていると感じます。



私の初夢としましては、我々情報サービス産業が社会課題を解決するという企業をサポートすることで、我々の力で SDGs の 17 の目標に対して少しでも解決に向けた道を進めていくといったものです。このようなことは夢のまた夢ですが、何らかの形でこの社会の課題解決をビジネスにすることを今年はしっかり始めていかなければならないと改めて感じたところでした。ビジネスにすることは大変難しいことですが、逆に考えますと世界中に転がっている社会課題こそが私たちのブルーオーシャンでありビジネスの基で、ここに取り組むことが我々企業の一番のサステナビリティに繋がるとも言えます。そのような考え方も含めて、私たちの企業、また情報サービス産業がこの地球に対してどのような価値を与えていけるのか、しっかり考えていきたいと思えます。

皆さまの会社は史上最高益を出す勢いかもかもしれませんが、益々我々の産業が発展することによって、社会課題の解決を始め日本企業の世界への挑戦がうまく進むように我々 JISA としても精進していきたいと思えます。是非皆さまの企業の繁栄を祈念するとともに、情報サービス産業のこれからの発展を誓い、新年のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。